



なぞって練習

門の戸も蔀風になつて  
 いて上げられである下  
 から家の全部が見える  
 ほどの簡単なものである。  
 衰れに思ったが、  
 ただ仮の世の相である  
 から宮も藁屋も同じ  
 ことという歌が思われ  
 て、われわれの住居  
 だつて一所だとも思え  
 た。端隠しのような  
 物に青々とした蔓草  
 が勢いよくかかつて、  
 それの白い花だけがそ  
 の辺で見える何よりもう  
 れしそうな顔で笑つて  
 いた。

■ 参考

※蔀風 【つひみぶし】

※藁屋 【わらや】

※住居 【すまご】

※一所 【いっしょ】

※蔓草 【つるくわ】

(青空文庫のフリガナより)